



学生リーダーとして、スケジュール確認の指示を出している鈴木ひかりさん

「ちば YOSAKOI」は 学生実行委員会の力で 盛り上がった

本祭はコンテストにもなっていて、ステージでの演舞や沿道でのパレードを行い、審査員の評価が高かったチームがファイナルステージに進み順位がつく。今年は、千葉県船橋市を拠点としている「REDA

披露される。各チームがアレンジしたさまざまな楽曲と振り付けが披露される。本祭はコンテストにもなっていて、ステージでの演舞や沿道でのパレードを行い、審査員の評価が高かったチームがファイナルステージに進み順位がつく。今年は、千葉県船橋市を拠点としている「REDA

「ファイナルステージの観客席が満席で、街に根付いたお祭りなんだ」と実感した。そのお祭りに携われた感動が大きかったと、無事イベントを終えた感想を語ってくれた。

「スケジュールは、祭りの全体とステージのタイムスケジュール管理だ。タイムスケジュールは、自分自身で制作した。このイベントでは、学生実行委員は運営のみならず、企画・立案もすることができた。自主的に参加できるが、それだけ責任が重いということだ。タイムスケジュールは、

祭りが行われている4つの会場は、学生実行委員長の千葉大学3年生田中綾乃さんと5人の学生リーダーを中心に運営された。鈴木さんは、メインステージのリーダーを務めた。

「スタッフ間で連絡を取り合い、ようやくファイナルステージに進むチームの連絡を受けた鈴木さんは、待ちわびる観客や参加チームに急いで報告を行い、誘導や準備の指示を矢継ぎ早に出した。踊り子の協力もあって、イベントはスムーズに動き出した。その後は順調に時間の調節ができ、無事に予定通り終了することができた。

綱渡りの本番を無事に進行させる

「実際に本番になると、なかなかタイムスケジュール通りに進まない。沿道パレードの審査員評価に時間がかかり、ファイナルステージに進むチームの発表がなかなかできない。誘導や発表時間が遅れてしまい、多くの方を待たせてしまった。

高知県発祥のよさこい祭りは、日本各地で行われている。千葉県でも9回目となる「ちば YOSAKOI2019」(主催：ちば YOSAKOI 実行委員会・NPO 法人千葉よさこい連絡協議会)が2019年10月5日・6日に開催された。街の活性化がコンセプトで、運営の一部は、学生実行委員が主体となって行った。江戸川大学からは、メディア・コミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科3年生の鈴木ひかりさんが参加した。(撮影：三好有香 取材・文：池谷明日香)

昨年とまったく同じというわけにはいかない。試行錯誤しながら作った。不安との戦いだった。実際に本番になると、なかなかタイムスケジュール通りに進まない。沿道パレードの審査員評価に時間がかかり、ファイナルステージに進むチームの発表がなかなかできない。誘導や発表時間が遅れてしまい、多くの方を待たせてしまった。

学生リーダーとして 江戸川大学生も参加



ちば YOSAKOI2019 で優勝した「REDA 舞神楽」。ファイナルステージでの演舞。



左：学生実行委員長の田中綾乃さん。右：沿道パレードで舞う踊り子たち。